



「医療の届かないところに 医療を届ける」

アジアの途上国を 「日本の心」で医療サポート

今回は「日本の心」でアジア各国の
医療サポートをされている団体をご紹介します。

その名も「ジャパンハート」。

「小さな親切」運動とも通じる“心”を大切に活動をしています。



命を救いたい 創始者吉岡秀人氏の 想い

今、私たちは病気になればいつでも病院に行つて、最新の医療を受けることができます。健康診断も、企業や自治体のサポートで定期的に受けることができます。

しかし、アジアの発展途上国では、医療施設、保険制度の不備や貧困のため、十分な医療を受けることができない国がとても多いのです。特に幼い子どもがその犠牲となり、毎年日本であれば救えたであろう多くの命が失われています。

こうした現状に対して、「医療の届かないところに医療を届ける」活動をされているのが、「特定非営利活動法人 ジャパンハート」です。同法人 東京事務局の理事で、事務局長の佐藤抄しゅうさんにお話を伺いました。

「最高顧問である小児外科医の吉岡秀人が、1995年にミャンマーで医療活動を始めました。その際の経験から、現在のような活動の必要性を感じ、2004年に国際医療ボランティア団体としてスタートしました」。



各国での主な活動

カンボジア

2016年、「ジャパンハート医療センター」を開設。子どもから大人まで無償で医療を受けられる。さらに2018年には、小児がん治療へも対応する「こども医療センター」を増設した。

ミャンマー

ワツチェ慈善病院にて、貧しい人々を中心に外来診療と手術活動を無償で行う。13年間の活動で治療件数は11万8千件に上る。

ラオス

山岳地域で多くの巡回治療を行う。

若き吉岡医師はミャンマーでの医療活動を経て、二つのことに気付きました。一つは、自分の医師としての未熟さ。そしてもう一つは、当時行われていたような医療ボランティアでは、現地の人に本当に必要なサポートをすることができないということでした。

そこで、吉岡医師は日本にいったん戻り、自らの技術や能力を磨きました。また、自分が思うような活動を行うためには、単に医療を施すだけではなく、現地の人々の生活や文化に寄り添った、医療サポートを行う必要があると考えました。

さらに、地元の医師を育てることも、恒久的な医療体制づくりにも、重要な要素でした。その実現のために、ジャパンハートは誕生しました。

「言うは易し」ですが、実践するには多くの障壁があります。予算、医療拠点、現地政府との調整、派遣す



手術中の吉岡医師

る医療班の確保等々。

しかし、次第に吉岡医師に賛同する人々や団体が増えていきました。この吉岡医師の話は、毎日放送の「情熱大陸」を始め、何度もテレビ放送されていますのでご存知の方も多いかもれません。

現在は、ミャンマー、カンボジア、ラオスへ毎年700名の医師や看護師を派遣するまでに成長しています。

人件費がかからない医療サポートとは

これらの国には、日本のような健康保険制度はなく、医療にかかる経費は全額自己負担になります。特に乳幼児の死亡率が高く、ミャンマーでは1000人のうち48人が、5歳

になる前に亡くなっていますが、年収が3万円程度の地域では、手も足も出ません。

しかし、驚いたことにジャパンハートの施設なら、治療費が全て、無料となるのです。

なぜ、このようなことが可能なのでしょう。

「もちろん、経費はご寄附等から賄いますが、なによりも派遣している医師や看護師の皆さんはまったくの無償で、ボランティアとして活動して下さっていることが大きいと思います。現地のスタッフは有給ですが、派遣スタッフには人件費がかかりません」と、佐藤さんは教えてくれました。現地までの飛行機代なども全て自己負担です。それで年間700人ものスタッフを派遣できるとは！

佐藤さんによると、医療や看護の道を進む人は元々「人の役に立ちたい」という意思を持っている人が多く、ここがいかにも日本人らしいの



ジャパンハート東京事務局
理事・事務局長 佐藤抄さん

ですが、ボランティアに来てあげたという態度ではなく、「自分たちもそこで学ばせてもらっている」という姿勢で参加されるのだそうです。

現地では、他の国からも多くのボランティア団体が来て活動していますが、こうした点は決定的に他とは異なる特長です。そのため、単に身体を治療するだけではなく、現地の人の生活や文化を知り、心情に寄り添うという「心の医療」にまで踏み込めるということでした。

日本の心、つまり「ジャパンハート」という名称もそこから来ています。「日本の美風の蘇生と新生」を活動目標に掲げる「小さな親切」運動と、とても近いものを感じます。

参加者の報告書の一部をご紹介します。



「医療の届かないところに
医療を届ける」
アジアの途上国を、
「日本の心」で医療サポート

「今回、日本とは大きく環境も言語も異なる地で活動することにより、自らがこれまで得てきた知識やスキルが、現地の方に医療という形で少しでも貢献できたことに喜びを感じ、改めて医療者としてのやりがいを持ちました」
(脳神経外科医)

「自分自身の看護のモチベーションを保つためにも、また参加したいです。年齢的に海外で医療ボランティアに参加することは、とても勇気が必要でしたし、体力も、金銭面も調整が必要でしたが、そんなことはこの日本ではどうか解決できるものです。ボランティアに参加するか迷いがあるなら、ぜひ今、行くべきだと思います」
(看護師)

この他の参加者の声で共通するのは、やはり「学び」でした。日本とはまったく異なる環境での医療奉仕活動は、医療の必要性や日本の長所などを、改めて浮き彫りにするようです。

日本では想像できませんが、カンボジアでは誰かが入院すると、家族もいっしょに泊まり込むのだそうです。現地の生活に寄り添うには、そうしたことへの対応も必要になって

くるのでしょうか。

色々な形で
ジャパンハートを
支援できる

それにしても、まったくのボランティアとなると、参加者ご自身の生活の方が気になります。

「1週間ほどの短い派遣もありますので、一般の方でもお休みを使っただけで行けますし、現地では日本語だけで意思疎通ができますので、気軽に参加していただけます」と佐藤さん。

特に2011年の東日本大震災を契機として、ボランティアに興味を持たれる方も増えたとか。その東日本大震災では、ジャパンハートも活動を展開。以後、医療機関への医師の派遣や、仮設住宅での健康診断の臨床心理士による子どもたちへの心のケア等の活動を続けています。実は佐藤さんご自身も、このボランティア活動で、ジャパンハートと接点を持ったのだそうです。

「それまでは、まったく別の世界で仕事をしていましたけどね」という佐藤さんの笑顔がとてすてきで、ジャパンハートから派遣されていく

方々はみんな同じような笑顔なんだろうなと想像してしまいました。

活動の最終目的は、現地のスタッフが医療技術を学び、自分たちだけで運営ができるようにすることです。カンボジアではその下地ができて始めています。とはいえ、まだまだ道は半ばですので、支援の充実が必要です。

ジャパンハートの活動には、医療従事者だけでなく、一般人や学生も参加できます。もともと手軽なのは、海外ボランティアツアーです。観光をしながら、各国の文化に触れ、ボランティア体験もできます。

さらに、国内でも東京事務局での宛名書きやパソコン入力、翻訳、印刷物の企画、写真撮影、画像編集等で運営をサポートすることもできます。もっと簡単なところでは、用品を送るだけでも手助けになるのだそうです。(詳細は次ページ)

今回の記事を読まれて、興味を持たれた方は、ぜひ活動にご参加ください。



特定非営利活動法人ジャパンハート

〒110-0016 東京都台東区台東1-33-6 セントオフィス秋葉原10階
電話●03-6240-1564 FAX●03-5818-1610

始めてみよう! ボランティア

ボランティアに興味はあるものの、時間がないし、体力的にも大変そう……。しかし、“不要になったモノを送る”だけでも、支援につながります。気軽にできるボランティア、まずはできることから始めてみませんか。

海外の子どもたちを支援する



前頁で紹介した「特定非営利活動法人 ジャパンハート」では、次の不用品を送ると、買い取り金額が寄附となり、活動の支援につながります。

- 古本・CD・DVD・ゲーム
- 携帯電話、カメラ、ブランド品
- 未使用切手、書き損じはがき

【本1冊でできること】

養育施設の子ども一人に文房具を提供

【書き損じはがき30枚でできること】

5歳の子ども40人に抗生物質を注射

【中古スマホ1台でできること】

2人の口唇裂手術

※1冊50円、書き損じはがき30枚1,000円、中古スマホ1台5,000円として計算
※送付方法等についての詳細は「ジャパンハート」Webサイトをご確認ください
(<http://www.japanheart.org/>)

国内の子どもたちを支援する



児童養護施設には、様々な理由で親と離れて暮らす、2歳から18歳までの子どもたちがいますが、18歳になると施設を出なければなりません。「特定非営利活動法人プラネットカナル」では、児童養護施設の卒業生の一人立ちを支援するため、一人暮らし用の家電・家具などを集め、保管・クリーニングして、寄贈する「SUDACHI(巣立ち)プロジェクト」を推進しています。

●一人暮らし用家電・家具

小型冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・

テレビ・炊飯器・掃除機・ドライヤー・

アイロン・電気ケトル・扇風機等

●その他

小型収納家具(カラーボックス・衣装ケース等)

調理器具(鍋・フライパン等)

問合せ先

特定非営利活動法人プラネットカナル

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-24-14

電話 ● 050-3772-2449

メール ● planetcanal.contact@gmail.com

〈SUDACHI(巣立ち)プロジェクトについて〉

<http://www.planetcanal.org/sudachi.html>

※送付方法等の詳細は、上記Webサイトをご確認ください。

あなたの地域で同じ活動をしてみませんか

現在、東京都武蔵野市を中心に活動をしている同法人ですが、全国の児童養護施設は600強。一人でも多くの卒業生を支援するため、全国で協力してくださる方を募集しています。保管場所の提供や、配送支援も大歓迎。ご興味のある方は、左記までお気軽にお問い合わせください。